

しかはま自然観察会  『人も 自然も みんなともだち !』No.6	代表責任者 古高 利男 ☎270-1132 我孫子市湖北台2-14-7 ☎090-7275-9890 2018, 7, 14~16
--	--

第6回活動 夏休み「キャンプ体験」9回目

土呂部でのキャンプは、どうだったのでしょうか？  
 標高1000mだから、きっと、涼しかったのでしょうかね！  
 テントは、うまく張れたのかな？お子様たちも、手伝って  
 くれましたか？  
 初めての場所で、どんな活動をしたのでしょうか？  
 山滴る大自然の中で、おもいっきり楽しんだのでしょうかね！

1, 日 時： 2018年7月14～16（日）2泊3日

2, 天 気： ずっと晴れ、暑い！  
 気温・・・34℃以上  
 夕方・・・22℃ぐらい  
 朝方・・・18℃ぐらい  
 川の水・・・13℃ぐらい

3, 交 通：○現地集合  
 ○電車・バス利用

4. 場 所：○日光市土呂部97  
 キャンプインドロブックル

5, 参加者：総数 42人  
 内訳 15家族

大 人	21
高 校	1
中学生	1
小学生	11
幼 児	6
スタッフ	2

たくさんの方々に参加して頂き、それぞれの場面で活躍していただきました。食事作り、スイカ切り、カートンドック作り、魚つかみ、ワラビのあくぬき、フオークダンス、火の神、後かたづけなどです。ありがとうございました。

## 6, 活動の様子

初めてのキャンプ場。どんな3日間になるのか不安でしたが、皆様のご協力のおかげで、たくさんの活動を十分に楽しむことができました。

### ●1日目(7月14日)曇り、午後7時の気温22, 6℃

#### ○リョンドールで買い物

春日さんの車は、10時前にここに着きました。食料の買い出しです。同乗した寛太くん・大樹くんも手伝ってくれました。土呂部のキャンプ場へ向かう最後のスーパーです。

#### ○青柳車庫

電車・バスで参加する家族は、ここに集合です。14人がバスから降りてきました。春日車だけでは間に合いません。援軍がきました。高松車と山本車です。それぞれ分乗し、キャンプ場に向かいました。

待っている間に、地もとの人に話を聞きました。この先の女夫淵に温泉が湧き旅館がある頃は、車の往来がたくさんありにぎわっていたということです。それが、地震で温泉が出なくなってから、旅館は廃業し、沿線もすっかり廃れてしまったということでした。

そういえば、ここを走るバスは、自治体が動かしてくれています。

#### ○キャンプ場

12時をすぎると、1台また1台と車が到着しました。管理棟でお金を払いキャンプサイトを教えてもらっています。2時すぎには、全員集合しました。一つとして同じではないテントが、10張り並びました。だんだんと人の住む雰囲気がちこめてきました。

それにしても、ここはトンボの天国のようです。至る所でトンボを目にするのです。地面にも、草の先っぽにも、見上げれば空高くまで重なるようにして飛んでいます。人の頭・腕・胸にまで、なんの警戒心もなく止まってくれました。

#### ○3時

全員集合です。メンバーの紹介、安全のための確認、係り分担、夕食のメニュー、そして、3日間の活動の流れです。

打ち合わせが終わると、子どもたちは網を持って虫とりに、あるいは川へと散っていきました。

しばらくは、のんびりした時間です。

- ・・・ケビンは2棟、トイレ・シャワー・冷蔵庫がついている。網戸にすると、夜も涼しそう！
- ・・・トイレは3ヶ所
- ・・・炊事棟は2ヶ所。真ん中にテーブルが2つ。外側に流し台、内側にかまどが並んでいる。ピザ窯もありました。
- ・・・管理棟では、地もとのお母さん2名が対応してくれました。とても親切でした。  
炭1kg400円、シャワー9分間200円、ゴミ袋1枚100円、氷も売っていました。

・・・キャンプ場の回りでは、無数のトンボが飛び交い、キリギリスが鳴き、木の上ではホオジロが鳴いていました。森の奥からは、ツツドリやホトトギス、ヨタカ、トラツグミの声も聞こえてきました。

○ 5時

夕食の準備が始まりました。米を炊く人、カレーライスを作る人、キュウリの漬け物を作る人。炊事棟では大人の人が、せわしなく動く姿がありました。

○ 6時

待ちに待った夕食です。雅人君の「いただきます！」で、ドロブツクルの大自然の味を加味しながら、とっても美味しくいただきました。二つの鍋で炊いたご飯は、すっかりなくなりました。こげたご飯がおいしかった！

○ 7時出発、

夕飯を早めに終わらしたのには、わけがあります。

これから「ゲンジボタル」の鑑賞会なのです。なかなか見られないゲンジボタル、どんな様子なのでしょう？

期待に胸をふくらませて、案内人の飯村様のところへ向かいます。歩いて、20分はかかるのです。

日光茅ボッチの会の代表である飯村孝文様が、待っていてくれました。

始めに、ゲンジボタルとヘイケボタルのちがいを、図を見ながら説明してくれました。

ゲンジボタルは、ヘイケより大きく、頭部の真ん中にT字の線がはいっていること、点滅する間隔は長いこと。ヘイケは、頭部の真ん中に直線が走っていること。エサは、どちらもカワニナです。生息場所は、ゲンジボタルは流れのあるきれいな水のところ、ヘイケは田んぼや池のようなところで、ゲンジボタルよりは下流になること。

そんなことを頭に入れながら目的地に向かいました、

脇道に入りました。その左手は川です。あっ、見えました。薄暗い樹林の間から、光の点滅があっちこっちにあります。「見えた！」「こっちにも光ってる！」感嘆の声が上がってきました。よく観察すると、川の反対側、つまり右側でもたくさんのゲンジボタルが飛んでいるのでした。日がすっかり落ちて、真っ暗な中の光の点滅は、静寂なだけになお幻影的であり、不思議な光景でした。

これらの光景は、オスがたくさんの光を出してメスを呼び寄せ、子孫を残そうとしている必死の行為だということです。

ちなみに、ヘイケボタルにも三匹出会いました。また、6月下旬頃にはヒメボタルを、キャンプ場の近くで観察できるようです。

○ 就寝の時間

8時30分には戻り、いよいよ寝る準備です。ホテルをみた興奮さめやらぬうちに、歯を磨いたり、トイレに行ったりと、テントをせわしなく出入りしています。

空は曇りで、☆は見えていませんでした。

○ 大人の反省会

9時ごろから集まり、9時30分にはみんなが集まりました。飲むほどに話しがはずみ、声も大きくなりました。子どもたちも眠れず、大人やテントの回りをうろうろしています。

キャンプ場の消灯時間はとくに過ぎ、大人が横になったのは1時を回っていました。

そんなわけで、管理事務所からレッドカードをいただきました。

● 2日目（7月15日）晴れ、気温：朝6時18，6℃、

今日も、朝からいい天気です。12時頃、直射日光下では45，6℃にもなりました。子どもたちは、川遊びで涼をとっていました。

○ ラジオ体操

6時30分、ラジオからは懐かしい体操の音楽が流れてきます。やりたい人がやる。すっかりのらえもんの風物詩となりました。

○ 朝食は「カートンドック」

梅北さんの指導のもと、朝食作りがはじまりました。

- ①食パンに、卵・チーズ・ハム・ソーセージ・キャベツなどをはさむ
- ②その上に、ケチャップ・マヨネーズ・芥子など、好みのものをかける
- ③アルミホイルでくるむ
- ④牛乳パックに入れる
- ⑤牛乳パックに火をつける

牛乳パックが焼けたら、できあがり！

ほんのり暖かく、手軽で、美味しくいただきました。

好みにあわせて、いろいろな物をトッピングできるのがいいですね！

朝食には、手軽・美味しく・片付け簡単で、最適のようです。

○ 里山散策

9時出発。9時30分、飯村様のところに到着。

昨夜、ゲンジボタルを案内してくれた飯村様が、今日も里山を案内してくれます。

この里山は、昔は集落の大切な牛のエサ・緑肥・茅葺きの材料・山菜などになっていました。が、牛がいなくなり、人口も減り、利用することが減っていきました。すると、草原に木が侵入してきて、利用していた茅・緑肥・山菜・盆花などが失われていきました。草原に生息していた昆虫類も少なくなってきました。

そんな状況を知った飯村様をはじめとした日光茅ボッチの会が、里山の価値を、もう一度復活させようとした場所なのです。

里山は、利用することで、維持・持続します。のらえもんの40人は、歓迎されて、入山しました。

回りには鹿除けの電流が流れています。そうしないと、里山のススキ・盆花などの保護・増殖をしている大切な植物を食べてしまうそうです。また、この電流を流すために、その下の草刈りを10日ごとにくりかえしているとのことでした。

電流を切って、中に入れてくれました。一面ワラビの葉に被われていました。その中に、ススキ・盆花がありました。盆花とは、集落の人々がここに来て、お盆に飾る野花を摘んだ総称です。「まだ、少し時期が早いので・・・」という飯村様。それでも、ウツボ草・ニッコウキスゲ・山ホタルブクロ・河原ナデシコ・オカトラノオ・チダケサシ・ハギ・オトギリソウ・コオニユリ・ノバラアザミなどが、私たちの目を楽しませてくれました。

太陽が照りつける北斜面、そこに散策路が続いています。歩きながらワラビを摘み、盆花を観察し、コナラと赤松の大木の所にきました。40人がはいてもまだ余るほどの日影。日影は涼しく、気持ちよく、天国のようです。ハンモックを見つけた子どもたちは、早速ハンモック遊びです。1人で乗ったり、4人で乗ったり。いろいろな押し方で、気分は最高潮です。余裕が出たのか、「大人も、乗ってみる？」と声をかけてきました。それにのっかる大人たち！いい雰囲気です！

ここでたっぷり休憩し、この里山を一周して帰ってきました。

里山から見る土呂部集落は、すっかりモンスターと化した木や草の緑で被われ、今にも飲み込まれそうな風景でした。昔は、畑が広がり、牛がモーと鳴き、子どもたちが駆けめぐり、もっともっと人の臭いに満ちていただろうに・・・。

現在、集落には、75才以上の人が、30人ほど住んでいるだけとのこと。

#### ○ 昼食は、何？

栗原さんのご主人が到着。これで全員集合です。

「早く、戻りたい」という子どもたち。12時すぎには、キャンプ場につきました。

山口さんのママが、お昼を作って、待っていてくれました。

のらえもんが購入した蒸し器2セットを使い、おいしいレシピです。

ジャガイモ、トウモロコシ、うどんに鶏肉のトマト和え。食器と箸を持って、一列に並びます。「おいしい！」「この味、どうやって出したの？」食後は、デザートのスイカです。もくもく食べるひと、レシピを聞く人、片手にビールを持って一人ボーッとしている人、様々な昼食風景です。

食後は、炊事棟できれいに洗い、箸と食器を乾かしておきます。

40人もの食事は、山口ママの手により、蒸し器2セットとスノーピークのコンロと炭が大活躍してくれました。

#### ○ 川遊びと魚つかみ

「食事の後は、昼寝！」と思っていたら、テントサイトには誰もいない？さすが、のらえもん！一番涼しい河原で水遊びに高じているのでした。岸から飛び込む人、お互いに水をかけあっているグループ、潜っている人、何かを探している人、その回りでは保護者たちが川に足を浸け、涼んでいる。こんないい場所を、早くから見つけていたんだ。

「来年は、ここで、水着を用意し、たっぷり遊ぼう！」と、イメージが広がりました。岩魚もいそうです。

大きな石、河原の木や草、流木、そんなそばで川遊び、ワイルドだなー！！

3時。いよいよ魚つかみが始まります。45匹のニジマスが放されました。子どもたちは、キャッキョと奇声をだしながら魚を追う。魚は、逃げる。「石の中だ！」と、石をひっくりかえす子。40の足が水中を動く。始めは敏捷だった魚は、だんだん弱ってきた。子の手におさまる魚が増えてきた。「6匹目！」と、魚を高くあげる子。「あと、5匹だよ。」と、大人側からの声援が飛ぶ。

30分ほどで、魚つかみショーはおわりました。

○ おやつは魚の塩焼き&ムニエル

さ〜て、魚の命をうやうやしくいただく時です。炊事棟に運ばれたニジマスは、各自がさばき、はらわたを出しました。「包丁は、先を使うのよ！」と、お母さんの声が飛ぶ。子どもたちにとって、初めての魚さばき。ようやく調理出来たニジマスは、塩焼きかムニエルにして食べました。塩をふり割り箸を差し込んで、炭火に立てる。ムニエルは、アルミホイルにのせ、玉ねぎ・ピーマン・キャベツをトッピングし、塩こしょうをふりかけ、アルミホイルをていねいに巻いてから網の上に乗せる。

「にえてるよー！」「やけたー！」と、次のステップの音が聞こえてきます。異口同音に「おいしい！」の、おいしそうな声がキャンプ場に広がりました。

これはいい体験のようです。捕まえ、料理し、食べる、この一連の活動は子どもたちに全体を見せています。きっと、その時その時の様子を思い浮かべることが出来、ふりかえり感想を容易にしてくれることでしょう。

○ 夕食の準備

食べることの比重の大きさを感じます。すべてを、材料から作り出さなければなりません。仕込みから、料理する、食べる、片付けをする、までに2時間は必要です。

山口シェフは、張り切っています。手羽先の仕込みを始めました。里山で採ってきたワラビの仕込みは、灰を入れて、すでに終了しているのです。キュウリの塩コンブ浸けの準備も終わりました。ご飯を炊く用意も、男性が動き回りました。

○ 6時の夕食

コンロの上には手羽先が並べられました。もうもうと白い煙が上がっています。山口シェフは、ビール片手に、焼き加減を見えています。子どもたちの大好きな手羽先！

「はい、ならんで〜！」と、春日さんが声をかけると、食器を持った子どもたちが一列に並びました。ご飯をついでもらい、その上に手羽先をのせてもらっています。大人は、ご飯の上にキュウリとワラビのおひたしをのせてから手羽先です。ワラビは少しアクが残っていましたが、美味しくいただきました。手羽先の一巡が終わると、二巡目に入ります。三巡を過ぎると、「まだ？」「早く！」という声は無くなりました。お腹がだんだんふくれてきたのでしょう。

まだ食欲のある子どもたちは、山口ママの「算数の問題を解けたら」に、挑戦していました。手羽をエサに、算数の勉強でした！

- 初めてのキャンプファイヤーに挑戦
 

7時30分、春日さんが忙しく動き回り、キャンプファイヤーの準備ができました。

のらえもん初めての、キャンプファイヤーです。どうなるのでしょうか？小高い丘から火の神様が現れました。梅北さんです。「我は、火の神ゾー！」と、祝詞をあげながら薪に点火しました。赤い炎が立ち上がりました。そのまわりで、いよいよゲームが始まりました。最初は、崇克くんの指導による「猛獣狩り」です。3人の輪をつくったり、5人の輪を作ったりするのです。同じ人はダメなようですが……。次も、崇克くんによる「ジンギスカン」ですが、動きが速くてついていけません。汗も一杯出てきました。いよいよ、みんなで手をつないでフォークダンスです。「マイムマイム」「オクラホマミキサー」ですが、誰一人踊れる人はいません。大人の方は、昔のことを思い出しているのですが、浮かんでこないようです。曲だけが流れ、いい加減ながら踊りました。だんだん、みんなはしっかりと踊りたくなってきたようでした。「来年までに、覚えておくこと」が宿題になりました。

フィナーレは、花火でした。19人の子どもたちに6本ずつ配り、闇を光らせました。白い煙がもうもうと上がりました。親子で、存分に楽しめたようでした。

消化不良のところもありましたが、次年度につながる活動になりました。
- 9時
 

寝る準備です。今日は静かに寝ます。昨夜は遅くまで起きていたので、回りのテントに迷惑をかけてしまったようです。

キャンプ場のルールは、10時消灯でした。

大人の反省会も、静かにはじまりました。が、2日間の活動で疲れていました。11時には、それぞれテントに帰っていきました。

**\* 3日目（7月16日）晴れ、**

- 2時頃
 

トイレのため、テントを出ました。見上げると、無数の星が輝いています！天の川がドカーッと横たわっていました。大きい星・小さい星、それはそれはすごかった！

今頃起き出し、星を見る機会をつくるのも、いいかもしれません。
- 5時
 

起床です。すぐにコンロに火を入れ、大鍋を掛けました。すいとんの朝食です。7時には食べられるように、という山口ママの指示です。

片付けとバス停まで送っていく予定があるため、早い活動になりました。そして、朝食前に全員集合の写真を撮りました。こういう見通しが、40人の活動をスムーズにしてくれました。
- 9時
 

どんどんテントが片づいていきます。炊事棟の食器や鍋も少なくなってきました。この炊事棟のテーブルで、子どもたちは「ふりかえりの感想」を

書きました。3日間のキャンプの思い出を、言語化する練習です。学校で習った漢字などを使い、自分の言葉で表すことを意図しています。最後に、5-7-5の俳句調でまとめます。

白い紙に鉛筆を動かしている子どもたちの姿は、なかなかほほえましいものがあります。

- 9時30分  
バス停まで送る2台の車、発車。
- 10時  
管理人さんに挨拶して、来年またくるよ！  
水ぼうしょう苑のおかみさんに挨拶して、土呂部の集落を後にしました。
- 11時  
鬼怒川公園岩風呂に、春日・山口・高松の車が到着。  
シルバーは340円、安い、ありがとう！。  
3日間の汚れと疲れを落とし、牛乳を1本飲んで、解散しました。

皆さん、お疲れ様でした。

皆さん、ご協力ありがとうございました1

#### 7. 親と子の、いきいき感想

- 木登りが とても楽しい ワラビとり  
日が暑い 水が冷たい 蛍来い  
肉を食べた ビールを飲んだ 遊んだよ  
トンボが蚊じゃなくてよかった。  
毎日暑かったけど、とても楽しかった。  
川が近くて、水が冷たくて・・・。

○ たのしかった。

幼稚園年長

- \* 夏山で トンボ追いかけ 笑顔でる
- \* 夏の山草 見て楽しい 食べておいしい

母

- キャンプファイヤーをはじめてやって、おとうさんが火のかみさまをやって、おもしろかったです。  
みんなでね キャンプファイヤー 楽しいな  
きのうは みんなでみたよ ほたるをね

小2

- きゃんぷで さかなつかみ たのしかった。

小1

- ハンモック ゆられて楽しい 子どもたち

父、母



○とんぼ いっぱいで たのしかった。

○ がんばって たくさんわらび 取りました

小1

○ 歩いたよ たくさん歩く つかれたよ

キャンプは 虫がたくさん びっくりだ

1日目は、足がいたかったです。とんぼがたくさんいました。

2日目は、魚とりがたのしかったです。

3日目は、今これを書いています。

小3

○ 3日連続ではれで、よかったです。

川遊びが気持ちよかった。

キャンプファイヤーで、たくさんおどってたのしかったです。

魚のつかみどりを、またやりたいです。

わらびつむ 夏の野原に 虫がとぶ

小6

○ 川であそんでたのしかったです。

キャンプファイヤーがたのしかったです。

母親は よなかまでおきてて こどもは・・・

さとやまは むしやはなが いっぱいある

小2

○ 今回のキャンプは、4年ぶりに参加しました。場所は、鬼怒川の上流のドロブックルという所でした。

緑が沢山繁っていて、とてもキレイでした。

次のキャンプも参加したいです。

ドロブックル 緑が沢山 繁ってる

高校1

○ キャンプファイヤーがたのしかったです。

山里に キャンプファイヤーして おどれなく

来年こそは おどれけりたり

夏の夜の ゆめばかりなる ホタルかな

かがやきまして ひかりけるらん

小4

○ とんぼがいっぱいいていやだったけど、すずしくてたのしかったです。

あと、ハンモックがたのしかったことと、ホタルがきれいでした。

とんぼはね いっぱいと ごみのよう

わらびもち ほんとはくさだ まじまじい

小4

○ 肉、うまい

川の水冷たい、気持ちいい

火遊び、楽しい

虫、うざい

ハンモック、楽しい  
とんぼはね いっぱいいると ごみのよう  
わらびの根 粉がおいしい わらび餅  
ハンモック こぐひとによって こわすぎる

中1

○ わらびとり とんぼたくさん とりたいな

小5

○ ハンモック かいてんして おっこった

小6

○ うつぼ草 わらびとりとり 土呂部里

父

○ こみんかのほうがいいと思った。

とんぼがね いっぱいいるから ふゆかいだ

とんぼとぶ しすかな夏の ふうぶつし

父のため 夏の野原で わらびつむ

わがころもでに 虫とまりつつ

小4

○ 皆、優しくして頂き、楽しく過ごすことができました。

東京から離れ、自然に触れ、自分たちの食事の準備をし、とても良い経験が  
できました・

夏の夜 みんなで踊る フォークダンス

さとやまで 夢中で行う わらびとり

上沼田第三保育園